

平成 23 年度第 1 回みんなで支える森林づくり上小地域会議議事録

平成 23 年 11 月 8 日 13 時 00 分～
上小森林センター会議室

- 出席委員(敬称略) 上原栄子、加々美貴代、斉藤昌一、佐藤文雄、辰野登志男、
田畑宗郎、松沢康博
- 欠席委員(敬称略) 小岩井 彰

開会宣言

上小地方事務所林務課長あいさつ

司会 (比田井)

- ・委員 2 名が交代されたこと (新たに小岩井委員及び斉藤委員) を報告。
- ・各自自己紹介
- ・当会議は公開である旨を伝える。

会議事項

座長(辰野委員)

まず、平成 20～22 年度の森林税活用事業実績及び平成 23 年度事業の実施状況について事務局から一括して説明をいただき、その後にご意見等をお願いしたい。

事務局(比田井)

資料 1 (1-1 から 1-4) により「平成 20～22 年度の森林税活用事業実績」を説明
事務局(田中)

資料 2 により「平成 23 年度の森林税活用事業実施状況」を説明
座長

以上の報告説明に対してご意見、ご質問あったらお願いしたい。

松沢委員

資料 1-1 について、1 の里山整備事業と里山集約化事業については計画と実績の比較をしているが、2 及び 3 の事業については計画がないがどうしてか。

事務局(河内課長)

2 の推進支援金などは全県での金額計上であるし、3 の PR 事業は目標設定にはなじまないということで、それぞれ数値目標は定めていない。

座長

次に会議事項 3、「森林税に関するアンケート調査結果」について説明をお願いしたい。

事務局(比田井)

資料 3 により説明

座長

アンケート結果をみると、県も上小の結果もほぼ同じ傾向ではある。それだけ森林税の認知度は前年、前々年よりかなり上がっている気がする。この制度は24年度で切れる。25年度以降どうしようかという過渡期にある。忌憚のないご意見やご感想をいただきたい。

田畑委員

当初よりも森林税の認知度が上がっているようですが、若い人たちに浸透していないかなと思う。PR、広報などしていただいているとは思いますが、若い人たちには、飛びつきたいようなPR、もっと関心を持ってくれるような方法を考えてほしい。

森林税の期間については、あまり長くではなくて5年ぐらいで切って、また進めるほうがいいのではないかなと思う。

加々美委員

30%の方が森林税を知らないというのは、多いような気がする。30代40代のこれからを支えてゆく世代の方が知らない。もっと知らせるようなPRの方法が必要ではないか。

「広報ながのけん」は、昔は全戸配布だったと思うので手元があれば時間のある時に読んでもらえた。今若い人は新聞や広報はあまり読まないので、PRの方法を工夫してみたらいかか。

森林税はずっと続いた方がいいと思う。国の林業再生プランでも木を使うことが求められているが、搬出できない森林も多くあるので、そういう部分に森林税を使ってほしい。

佐藤委員

非常に認知度が高いことはうれしいが、私もこういう立場で携わっていなければ関心も500円とられているという認識もないかもしれない。

また、森林づくりは必要なものだと思う。森林税はやはり続けるべきであると思う。ただ、森林税は長野県独自のものではあるが、消費税の今後の動向によってはどう波及してゆくかわからない。今のままならばいいが消費税が5%から10%になるとどうなるのか気がかりである。やはり、若い世代、次世代にもっと認知してもらうことが重要ではないか。

上原委員

やはりアンケートでは、若い世代いわゆる30代、40代、子供のいるお母さんたちは、森林税について解らないということである。青木村でも緑の少年団の活動があったが、せっかく子供たちが活動しているので、もっとPRしていただいて、山の事とかに興味を持っていただいたらいいのではないかな。

また、ニホンジカやイノシシの被害があり駆除もしている。森林税で今後も継続して山をきれいにしていただいて鳥獣の隠れ場所がないようになれば被害も減るのではないかな。防護柵は金額も高く全員がやるという訳にはいかない。是非そうしていただきたい。

斉藤委員

アンケート結果で、森林税の名前は知っているが使い道は知らないという答えが多い。これはどういう使い方をしているかを広めてゆかなければいけないということではないかな。

県実施アンケートの中に、森林税の継続すべき理由で「森林には洪水、土砂災害、地球温暖化の防止などの大切なはたらきがある。」からとというのがある。最近、地震や土砂災害が多いので、この割合が大きくなったのかなと思う。

また負担額について、地方事務所実施アンケートでは1,000円という答えが26%、500円は56%、これだけみれば、森林税を使って続いてほしいという気持ちの表れかなと思う。

松沢委員

齊藤委員さんと同じで、県実施アンケートの結果で使い道がよく解らないということは、税金を払うのはいいが何に使われているのか解らないというところに問題があると思う。

山の整備は地域によって様々な問題を抱えている。国の制度では出来ないところを「地域で進める里山集約化事業」のように、この森林税で地元市町村の要望に基づいて援助すれば、地域に即した事業が実施できるのではないか。また、市町村が使いやすく、地域が必要とする様々な山の整備に使われてゆくような方策が出せればもっと目に見えた成果が上げられ、森林税が認知されると思う。今後も森林税が継続されるよう要望する。

座長

長和町でもこの森林税を頂戴して森林の整備が進んでおりありがたい。

私自身も年に1度天引きで500円、ワンコインの天引きは仕方ないかなと思う。

今まで18億のお金が使われて、それだけのお金が森林整備に使われるということはいいことではないかと思う。

この会議の席での皆様のお考えは、今回のアンケート結果どおりではないかと思う。

その他事項

特になし。

司会 室内会議終了宣言（14：10）

現地調査

場所：東御市(旧北御牧村)田之尻地区

・上小森林センター発 14：20

・現地調査 15：00～15：50

事務局 吉村より説明

みんなで支える里山整備事業による森林整備

森林（もり）の里親による山火事跡地の植栽

森林づくり推進支援金による野生鳥獣防護柵の設置

上記説明に対して特に意見等なし。

解散(会議終了宣言) 15：50